当院で気管支拡張症で治療された患者さんへ

2026 年 9 月 14 日

観察研究とは，患者さんに診療記録（カルテや検査結果など）のデータをご提供頂くことによって，病気の予防・診断・治療に関する情報を集め，これを詳しく調べて，医療の改善につながる新たな医学知識を発見するための研究です．私たちは過去のカルテより得られた情報を利用して，現在まで行われた病気の診断・治療の評価を行い，より良い診断・治療法を確立し患者さんに還元できるように，下記の観察研究を行っています．

下記の観察研究は，国立病院機構京都医療センター倫理委員会と研究協力病院での倫理委員会での承認を得て、研究責任者の管轄のもとに行われます．すでに記録されている臨床情報をもとに行われるため，対象となる患者さんに新たにご負担をおかけすることはありません．

また，この研究の結果は専門の学会や学術雑誌に発表されることがありますが，対象者のプライバシーは十分に尊重され，個人に関する情報(氏名など)が外部に公表されることは一切ありません．

もし，下記の疫学研究にご自身の臨床情報を使用されることに同意されない方は，下記連絡先にご連絡くだされば，解析対象から除外させていただきます．同意されない場合でも，診療上であなたが不利益を被ることは一切ありません．また下記研究に関して，ご不明な点がございましたら，いつでも下記連絡先にお問い合わせください．

＜概要＞

研究課題名：「エリスロマイシン供給停止が気管支拡張症患者にもたらす影響」

対　　象：当院で非嚢胞性線維症性気管支拡張症に対してエリスロマイシンを投与された患者さんのうち、エリスロマイシン供給不安定により 2024 年 7 月～2025 年 8 月の間で投与を中止した患者さん．

研究期間：倫理委員会の承認から最長で 2 年間を観察期間とします．
2026 年 9 月に承認を得てから 2028 年 8 月までの 2 年間．

研究目的：エリスロシンを含めたマクロライドの少量長期投与は非嚢胞性線維症性気管支拡張症の患者さんにおいて，その増悪頻度の低下に有効とされています．2024 年 7 月頃からエリスロマイシンが供給不安定となり，多くの患者さんで投薬中止または投薬内容の変更（アジスロマイシンやクラリスロマイシン）となりました．エリスロマイシンは副作用などの理由がなければ基本的に中止することは少なく，中止による増悪頻度の増加の報告は限られています．またクラリスロマイシンの少量長期投与による増悪抑制効果の報告も限られています．そこで研究協力病院でエリスロマイシンを中止した患者さんのデータを分析し，増悪頻度の推移やクラリスロマイシンの有効性を検証します．

方　　法：診療記録より臨床情報を収集します．収集する臨床情報には，年齢，性別，喫煙歴，mMRC，エリスロマイシン中止前の投薬，気管支拡張症の原因，合併症，免疫抑制治療の有無，慢性呼吸不全の有無，エリスロマイシン治療の詳細（投与量，期間），中止後の代替薬(アジスロマイシンやクラリスロマイシンであれば投与量・投与期間)，去痰薬，吸入薬，血清 CRP，喀痰培養の結果，呼吸機能検査，画像所見(関与している葉数)，中止前後 1 年間の増悪回数，入院歴，死亡等

があります．研究結果は学会および論文にて公表します．

個人情報：臨床情報は仮名加工され，個人が特定できないようにして，必要な臨床データのみを収集して解析を行います．そのため，本研究に協力していただく患者さんに不利益が生じることはないと考えています．しかし，そうであっても臨床情報を本研究のために使用されたくない方は，ご連絡いただければ解析対象から除外します．

問い合わせ先：研究責任者　吉村　才気　国立病院機構　京都医療センター　呼吸器内科

〒612-8555　京都市伏見区深草向畑町 1-1　　TEL： 075-641-9161（代表）